

目次

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	5
①スポーツ健康政策学部スポーツテクノロジー学科	
2. AC調査学部等を含む大学等の状況	7
3. 留意事項等に対する履行状況等	8

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人桐蔭学園

(2) 大学名

桐蔭横浜大学

(3) 大学の位置

〒225-8503

神奈川県横浜市青葉区鉄町1614番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	ヒライ ケイイチ 平岩 敬一 平成24年6月		
学長	サトウ ノブユキ 佐藤 宣践 平成28年4月		
学部長	マツモト カノスケ 松本 格之祐 平成28年4月		
学科長等	ヨシタ ユキハル 吉鷹 幸春 平成28年4月		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)
平成30年度に報告する内容 → (30)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。
 - ・対象学部等が複数の場合には、それぞれ記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

調査対象学部等の 名称(学位)	設置時の計画								定員変更年度	備考				
	修業年限	入学定員		編入学定員		収容定員								
		変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後							
スポーツ健康政策学部 スポーツテクノロジー学 学士(保健体育)	4	80	110	0	0	320	440	平成30年						
区分	対象年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率				
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	80人 - 人 (-) [-]	80人 - 人 (-) [-]	80人 - 人 (-) [-]	110人 - 人 (-) [-]	1.24 倍									
志願者数	495 (-) [-]	- (-) [-]	472 (-) [-]	- (-) [-]							449 (-) [-]	- (-) [-]	660 (-) [-]	- (-) [-]
受験者数	506 (-) [-]	- (-) [-]	454 (-) [-]	- (-) [-]							439 (-) [-]	- (-) [-]	648 (-) [-]	- (-) [-]
合格者数	161 (-) [-]	- (-) [-]	189 (-) [-]	- (-) [-]							161 (-) [-]	- (-) [-]	268 (-) [-]	- (-) [-]
B 入学者数	101 (-) [-]	- (-) [-]	102 (-) [-]	- (-) [-]							92 (-) [-]	- (-) [-]	139 (-) [-]	- (-) [-]
入学定員超過率 B/A	1.26		1.28								1.15		1.26	

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科等, 定員を定めている組織ごとに記入してください
(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位
(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表
を追加してください。
 ・ 様式は, 平成30年度定員変更の4年制の学科の場合ですが, 変更年度・修業年限に合わせて
作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください)。
 ・ 認可後さらに定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで
記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行って
いる場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には
「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入して
ください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる
「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)
及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を
記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている
場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入して
ください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**して
ください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限における入学定員超過率の平均を記入してください。
 なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・ 対象学部等が複数の場合には, 上記の表を学科ごとに作成してください。

2 AC調査学部等を含む大学等の状況

大学の名称	桐 蔭 横 浜 大 学											備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学定員超過率				平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の学 科のみ)	開設 年度	
					H27年度	H28年度	H29年度	H30年度				
法学部	年	人	年次 人	人	倍	倍	倍	倍	倍	年度	年度	
法律学科	4	180	3年次 10	740	1.05	1.13	1.30	1.28	1.19	-	平成5年	
医用工学部												
生命医工学科	4	40	-	160	1.15	0.97	1.17	1.07	1.09	-	平成21年	
臨床工学科	4	40	-	160	1.30	1.05	1.20	1.07	1.16	-	平成17年	
スポーツ健康政策学部												
スポーツ教育学科	4	80	-	320	1.26	1.23	1.25	1.10	1.21	-	平成20年	
スポーツテクノロジー学科	4	110 (80)	-	440 (320)	1.26	1.27	1.15	1.26	1.24	平成30年	平成20年	
スポーツ健康政策学科	4	80	-	320	1.28	1.28	1.17	1.10	1.21	-	平成20年	
大学の名称	桐 蔭 横 浜 大 学 大 学 院											備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学定員超過率				平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の学 科のみ)	開設 年度	
					H27年度	H28年度	H29年度	H30年度				
法務研究科	年	人	年次 人	人					倍			
法務専攻	3	-	-	-	0.47	0.43	0.33	-	-	-	平成16年	平成30年度より 学生募集停止
法学研究科												
法律学専攻 (修士課程)	2	10	-	20	0.60	0.40	0.40	0.40	0.45	-	平成9年	
法律学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	0.50	0.00	0.00	0.00	0.13	-	平成11年	
工学研究科												
医用工学専攻 (修士課程)	2	14	-	28	0.50	1.21	0.86	0.92	0.87	-	平成15年	
医用工学専攻 (博士後期課程)	3	6	-	18	0.67	0.33	0.33	0.16	0.37	-	平成17年	
スポーツ科学研究科												
スポーツ科学専攻 (修士課程)	2	10	-	20	0.60	0.43	0.33	0.70	0.52	-	平成27年	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

3 留意事項等に対する履行状況等

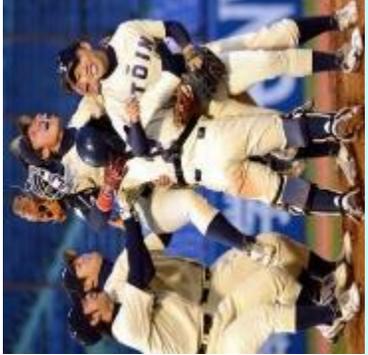
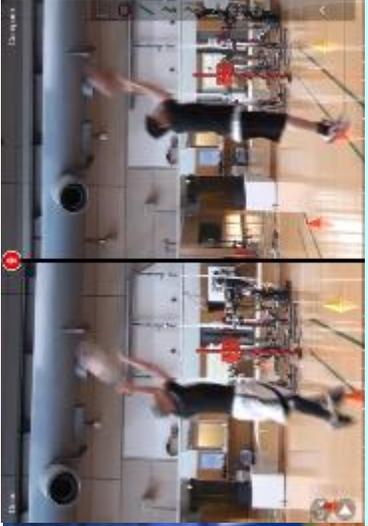
区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成29年8月)	・スポーツコーチの学修において必須となる実習先施設が十分に確保できるよう努めること。	留意事項 スポーツコーチング実習Ⅰは学内の強化指定クラブ(11団体)を実習先として、スポーツ教育振興本部という学内組織を通じて依頼をかけています。実習Ⅱは学外の実習となり実習生の母校や所属していたクラブチームにお願いしております。資料として強化指定クラブの一覧を添付します。(H30)	履行済
認 可 時 (平成29年8月)	・スポーツテクノロジー学科の下にスポーツトレーニングを学ぶコースが置かれるなど、学科名称のみでは必ずしも想定されない学修が用意されているコースもあるため、学生が各コースの内容も含めて入学前に十分把握できるよう明確に説明すること。	留意事項 各学科の特徴とコース内容については、オープンキャンパス時の説明や大学パンフレット、さらにホームページ上で詳しく説明を行っており、入学を検討する学生に対して確実な情報を提供しています。資料としてオープンキャンパス使用説明とパンフレットを添付します。(H30)	履行済

(注) ・ 「認可時」には、認可時に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を**全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

実習受け入れ先強化指定クラブ一覧

- ・ 硬式野球部
- ・ サッカー部
- ・ 剣道部
- ・ 水泳部
- ・ 男子柔道部
- ・ 女子柔道部
- ・ 男子ハンドボール部
- ・ 女子ハンドボール部
- ・ 女子バスケットボール部
- ・ 女子バレーボール部
- ・ チアリーディング部



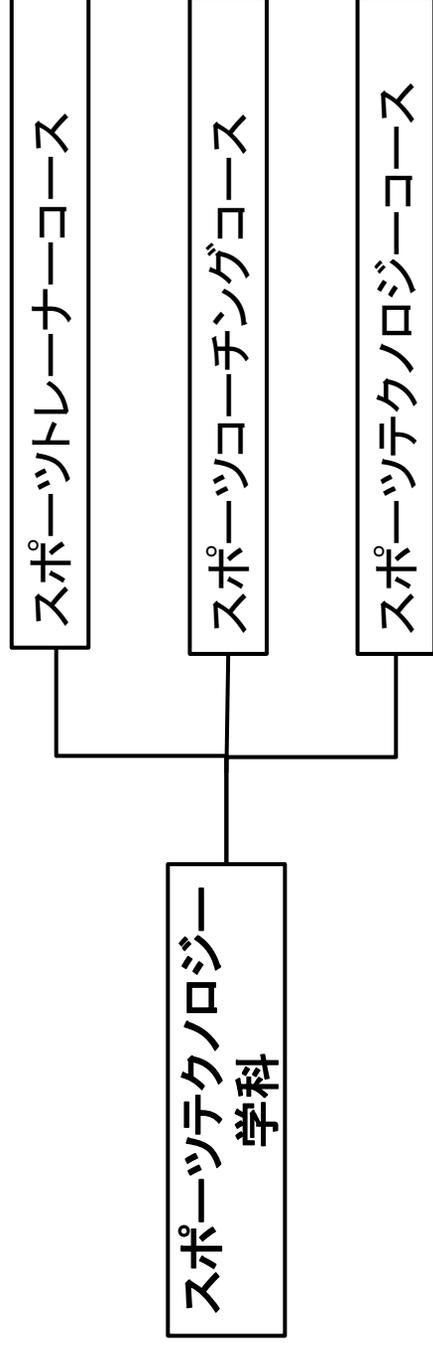
スポーツする身体へ 科学的にアプローチする

スポーツテクノロジー学科

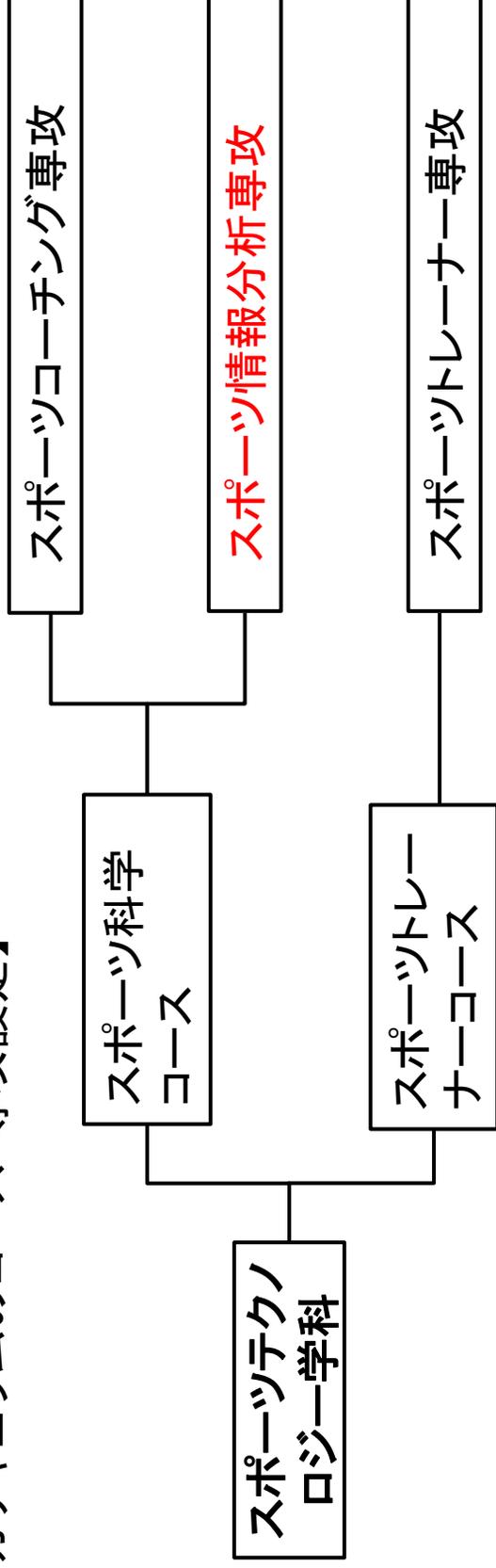
スポーツ健康政策学部



【現カリキュラムのコース設定】



【新カリキュラムのコース・専攻設定】



※JATI：日本トレーニング指導者協会認定指導者資格

※NSCA CPT：NSCAジャパン認定パーソナルトレーナー資格

※AT：日本体育協会認定アスレティックトレーナー資格（将来認定校を目指す）

スポーツテクノロジー学科の 選べる2コース、3専攻

スポーツ科学コース

スポーツコーチング専攻

選手を成功に導くスポーツコーチを目指す

(主な開講科目): コーチング論 / スポーツ心理学 / スポーツバイオメカニクス / 運動生理学 / スポーツ栄養学 / スポーツ医学など

専門職 及び 教員免許 を目指す



スポーツ情報分析専攻

スポーツを科学的に分析するスポーツ指導者を目指す

(主な開講科目): スポーツデータ解析 / スポーツ情報戦略論 / スポーツバイオメカニクス / 運動生理学 / スポーツ医学 など



トレーナーコース

スポーツトレーナー専攻

選手をサポートするスポーツトレーナーを目指す

(主な開講科目): テーピング論 / トレーニング論 / 予防とコンディショニング / トレーナーの役割 / アスレティックリハビリテーション / 測定評価学 / スポーツ医学 / スポーツ栄養学 / など

スポーツトレーナー 及び スポーツ指導者 を目指す





スポーツコーチング専攻

専攻の特徴

スポーツの意義や価値を正しく理解し、発達段階や技能レベルに応じた最適なコーチングを行うことができるコーチの育成を目指す。これからの時代に必要とされるスポーツ指導者としての能力や資質を備えようととも、それを実践できるようにする。

こんな学生にお勧め

- ・スポーツ指導者になりたい(スポーツを教える人になりたい)
- ・トップアスリートを育成したい
- ・運動部活動の指導者になりたい

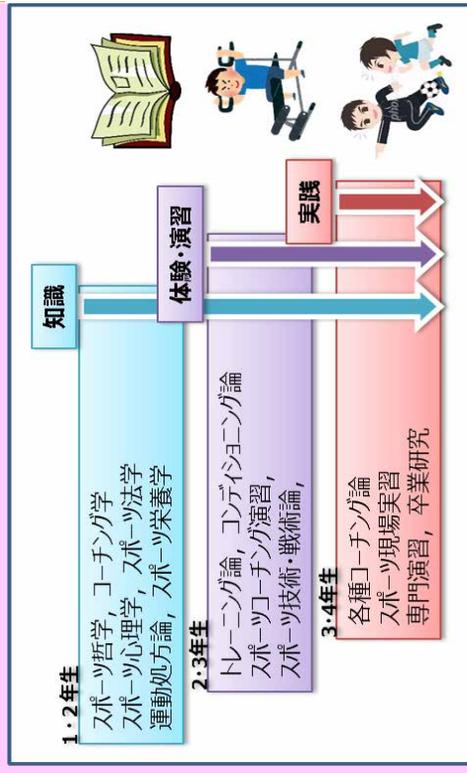
将来の活動の場

- ・運動部活動指導者
- ・地域スポーツクラブの指導者
- ・プロコーチ
- ・大学院進学

取得できる免許・資格

- ・中学高校教員免許(保健体育)
- ・日体協公認スポーツ指導者

スポーツコーチング専攻での学び





スポーツを科学的に分析する
スポーツ指導者を目指す

スポーツ情報分析専攻

競技から得られるデータを様々な角度から分析し、パフォーマンス向上やゲームの戦術に活かす取り組みが進んでいる。こうしたスポーツを科学するスポーツ情報分析について学ぶ。

コースの特徴

こんな学生にお勧め

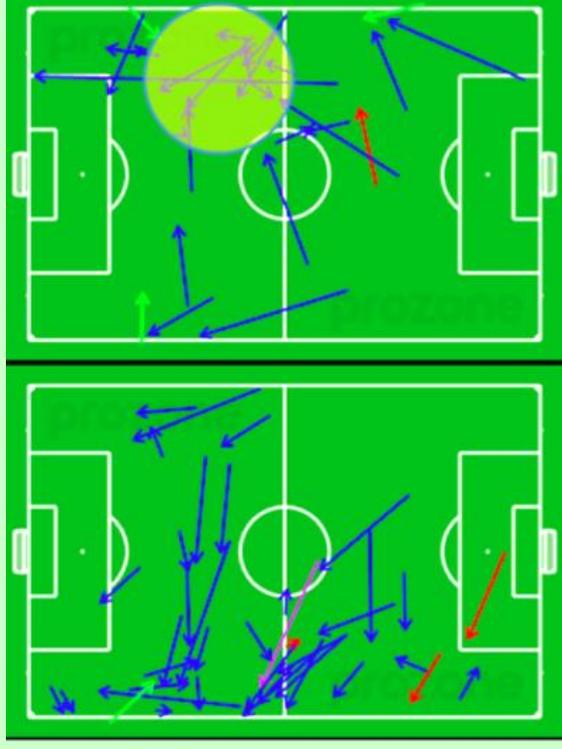
- ・ICT(情報通信技術)に興味がある
- ・スポーツの戦術に興味がある
- ・データに裏付けされた理論的指導のできるスポーツ指導者に

将来の活動の場

- ・運動部活動指導者
- ・スポーツ行政・非営利団体職員
- ・スポーツクラブ
- ・大学院進学

取得できる免許・資格

- ・中学高校教員免許(保健体育)
- ・スポーツアナリスト





選手をサポートする
スポーツトレーナーを目指す

スポーツトレーナー専攻

専攻の特徴

競技スポーツ選手は勿論、スポーツを楽しむ全ての人々の健康に配慮しつつ、**最適なパフォーマンスを引き出すトレーナーとして活躍するため**、幅広い医学的な知識をもとに科学的なトレーニングやコンディショニング法、運動傷害への対処法等を学ぶ。

こんな学生にお勧め

- ・身体や運動機能、栄養や健康について興味がある
- ・選手のパフォーマンスを見ることが好き、あるいは向上させたい
- ・スポーツする人のサポートを行いたい

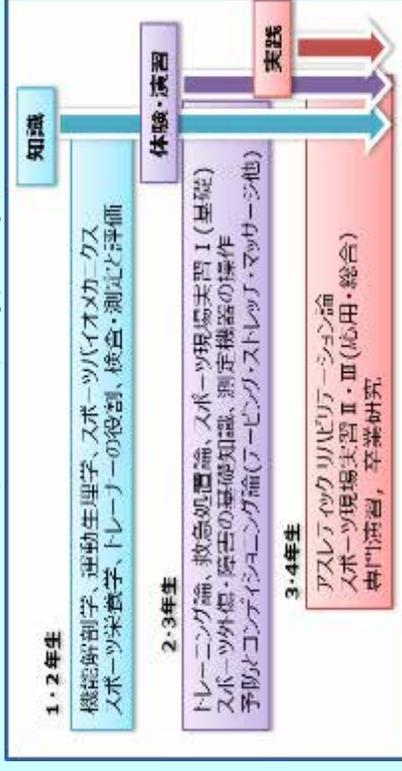
将来の活動の場

- ・スポーツトレーナー
- ・スポーツクラブの指導者
- ・運動部活動指導者
- ・大学院進学

取得できる免許・資格

- ・JATI-ATI
- ・NSCA-CSCS
- ・JASA-ATC
- ・中学高校教員免許(保健体育)

スポーツトレーナー専攻での学び



スポーツテクノロジー学科の学び

科学的根拠に基づいた

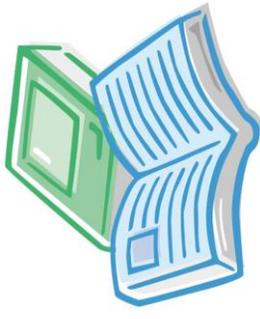
授業を中心とした学びについて

1・2年
運動生理学
機能解剖学
運動処方論
スポーツ栄養学 など

2・3年
コンディショニング論(実習を含む)
スポーツコーチング論
動作分析論
スポーツ情報戦略論 など

3・4年
各種コーチング論
専門演習、卒業研究
スポーツサポートセンター

知識



体験(演習)



実践



スポーツテクノロジー学科



最新情報は
こちらから

学生トレーナーや
ダブルスクールに挑戦。
さまざまな活動を通じて
自分の可能性を広げていく。

素晴らしいキャリアを持つ先生からの指導と
実践的なカリキュラムで理解を深める。

中学2年生の時、南アフリカW杯に感動して「あの場に
自分もいきなたい」と強く思いました。これが、トレーナー
を目指したきっかけです。授業ではテーピング論やスト
レッチング論など実習も充実しているのです。講義で教
わった内容をより深く理解できます。先生のなかには、
世界選手権などにトレーナーとして帯同された方もい
て、そうした経験を持っている方から教えていただけ
るのは、モチベーションも高まりますし、桐蔭横浜大学の
大きな魅力です。

スポーツトレーナーの夢に向けて
課外活動にも力を入れる。

学生生活のなかで、最も楽しい時間は学生トレーナーと
しての活動です。私は大学のフットサル部と桐蔭学園
高校のサッカー部で、それぞれ学生トレーナーをしてい
ます。実際の現場に立つと、身に付けるべき知識など
が明確になります。また、今年からアスレティックトレ
ナー[※]の資格取得に向けて、専門学校に通い始めまし
た。ダブルスクールは大変ですが、在学中に資格を取得
すれば、就職活動においても大きな武器になり、可能性
も広がるので、必ず合格したいです。

[※]アスレティックトレーナー：日本体育協会認定の公認資格。現場で選手が受
傷した時の応急処置や怪傷のケア、復帰までの手順を考えたりする。

1週間のカリキュラム【2年次後期の場合】

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1 運動生理学						
2 スポーツマーガ ティニング論 CDクラス	ラグビー CDクラス			スポーツ コーチング論Ⅲ (実定前期学 業履修含む)		
3			テニス Dクラス			スポーツ 情報処理論
4	スポーツバイオ メカニクス					
5 スポーツ施設 利用論	学部基礎 ゼミナー1B					

スポーツ健康政策学部 スポーツテクノロジー学科 2年
北海道旭川東高等学校出身(北海道)

平泉 直哉

Department of
Sport Technology

2018年度入試より スポーツテクノロジー学科の入学定員増加

2017年8月29日、
スポーツテクノロジー学科は入学定員30名増加が
文部科学省に正式に認められました。

80名



110名

TOPICS 2

新しいカリキュラムで
2コース3専攻に改定

専門家および教諭免許を目指す
スポーツ科学コース



選手を成功に導く
スポーツコーチング
専攻



スポーツを
科学的に分析する
スポーツ指導者を目指す
スポーツ情報分析
専攻

選手をサポートする
スポーツトレーナーを目指す
トレーナーコース

選手を支える
スポーツトレーナーを目指す

スポーツトレーナー専攻



学科長からのメッセージ



スポーツを愛するすべての人を支え、幸せにするための学びを。

2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。そこには競技者とそれを支える人、そして観衆がいま
す。スポーツはそこに集う人みんなを幸せにくれる。私はそう信じています。この学科では「スポーツする人
を支える」人材を育成します。勝利するためには、記録を更新するためにはどうすればいいか。トップアスリート
から子供、高齢者、障がい者が隔てなくスポーツを楽しむにはどうすればいいか。答えはこの学科にあります。ス
ポーツする人を支えるために必要な基礎を徹底的に学んで社会に還元して欲しい。それまで私たちが皆さんを
支えます。

学科長 教授 吉鷹 幸春 [運動方法論/コーチ学/スポーツ心理学]

スポーツテクノロジー学科 の特色

専門的な2つのコースから自由に選び、からだ・スポーツを支える科学のプロへ。中学・高校の教諭免許の取得も可能です。

- ポイント**
- 1 選手を成功に導くスポーツコーチを目指す
 - 2 スポーツを科学的に分析するスポーツ指導者を目指す
 - 3 選手をサポートするスポーツトレーナーを目指す

2018年度より、スポーツテクノロジー学科は新しくなります。

スポーツ分野の教育と科学分野の実績をベースに、スポーツコーチング分野、スポーツ情報処理分野、スポーツトレーナー分野の内容をバランス良く融合。確かなスポーツ指導法、コーチングスキルなどに加え、情報分析能力やトレーナー技能が高い有為な人材を養成します。

学びのコース

スポーツ科学コース

スポーツコーチング専攻

スポーツコーチとして選手を成功に導く力を養います。

スポーツの意義や価値を正しく理解し、発達段階や技能レベルに応じた最適なコーチングを行うことができるコーチの育成を目指します。4年間の学びを通じて自らのコーチング像をつくり上げ、これからの時代に必要とされる能力や資質を備えるとともに、それを実践できる人材の養成を目指します。



スポーツ情報分析専攻

スポーツを科学的に分析するスポーツ指導者を育成します。

現代では各種競技から得られる多様な情報をさまざまな角度から科学的に分析し、アスリートのパフォーマンス向上や、ゲームの戦術に活かす取り組みが進んでいます。こうしたスポーツを科学するスキル育成のための、スポーツ情報分析について学び、さらにそのスキルをスポーツ指導の現場に活かす方法を学びます。

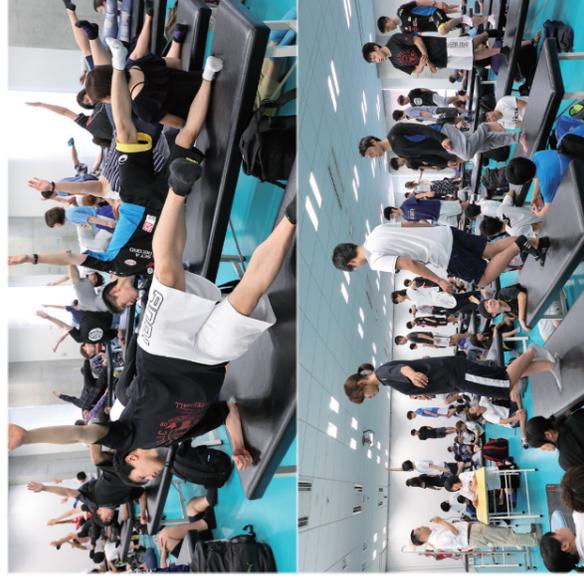


トレーナーコース

スポーツトレーナー専攻

スポーツ科学の世界で選手をサポートする知識と技術を学びます。

競技スポーツ選手をはじめ、スポーツを楽しむすべての人々の健康に配慮しつつ、最適なパフォーマンスを引き出すトレーナーとして活躍するため、幅広い医学的知識を基に科学的なトレーニングやコンディショニング法、運動傷害への対処法などを学びます。



Pick Up 授業

「コーチング」「情報分析」「トレーナー」の3つの専攻から、スポーツを支える指導者や、スポーツエンジニアの育成を目的としてスポーツ科学および工学、そして関連する領域の専門的な知識を修得。科学的・総合的な見識と技能を高めます。

【スポーツコーチング専攻】

1 スポーツコーチング実習 I・II

実際のスポーツコーチング現場では、プレーヤーの特性把握、環境の理解、コミュニケーション方法などを深めながら、多くの要素の複雑な関係に対応する力が求められます。本授業では、所属クラブチームや卒業高校などの実際のスポーツ現場において、学びで獲得してきたトレーニング科学やコーチング理論などを実践し、「卓上で学んだ理論を現場での実践的な指導力」へつなげていきます。

2 メンタルトレーニング論

あなたの力を日々の練習で「10」まで高めたいでしょうか。試合で「あがつて」しまい、その力が「5」しか発揮できなかったらどうでしょうか。「6」の力相手にも敗れてしまいます。もちろん、その逆もあります。メンタルトレーニングとは、競技者の競技力向上や実力発揮を目的とした心理的な練習方法です。本講座では、メンタルトレーニングについて正しい知識を持つことに重点を置きながら、その技法を学んでいきます。

【スポーツ情報分析専攻】

3 スポーツ情報戦略論

近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われ、情報の活用はトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠です。情報スポーツ界の多様なフィールドにおいて情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学びます。

5 テーピング論 (実習を含む)

テーピングはスポーツ傷害の予防や損傷部位を補助するためだけでなく、最近では身体機能の改善やパフォーマンスの向上を目的として活用されることもあります。テーピングの基本的な知識を理解すると同時に、実技において発症頻度の高い足関節捻挫のテーピングを中心に実用的なテーピング方法を学びます。

4 スポーツ映像分析論

スポーツの指導や対戦相手の研究、自チームや自身のプレーの反省には映像が欠かせません。映像の撮影、処理、分析、管理、共有などに関する学習に加え、多くのトップスポーツのサポートで用いられているツールを実際に触り、効果的な活用・フィードバックを行うための実践力を養います。

6 アスレティックリハビリテーション I (実習を含む)

リハビリテーションの概念から実際のリハビリテーションの方法論にも言及し、専門的な知識・技術なくとも、生きていく上で必要なツールとしてのリハビリテーションを学んでいきます。また、スポーツ・リハビリテーション、アスレティック・リハビリテーションについて学びます。